

第5回 理事会

日 時：令和2年7月30日(木)14:00~17:30

場 所：本学会会議室(Web会議併用)

出席者：長田会長(議長)、伊藤副会長、清水副会長、
末永常務理事、秋山、稲垣、太田、大谷、大沼、
奥村、小俣、北田、佐々木、竹村、富岡、西山、
長谷川(淳)、長谷川(信)、林、船山、升元、三好、
和田各理事
野村、齋藤各監事
欠席者：池見、徳永各理事
(理事25名中23名出席(過半数)により理事会は成立)

陪席者：熊谷(事務局)

議事内容：

1. 前回議事録の確認

- ・令和2年6月19日開催の第4回理事会の議事録案について承認した。
- ・議事録への捺印方法について検討する。

2. 審議事項

1) 会員状況及び新入会員の承認

- ・事務局長から7月30日時点の会員状況について説明があり、4名の正会員、2名の学生会員の入会を承認した。
- ・7月30日時点では、正会員1,832名、学生会員36名、名誉会員61名となり、総数は1,929名であることを確認した。
- ・学生会員の導入に関する経緯について確認した。

2) 委員、部会員、顧問の承認

- ・広報・情報委員会委員、応用地形学研究会委員、災害地質研究部会委員、土木地質研究部会顧問、社会貢献と魅力発信に関する特別委員会委員3名の合計7名の新任について承認した。

3) 令和2年度研究発表会の準備状況について

- ・担当理事より標記の説明がなされた。
- ・開催方法に関する議論の結果、新型コロナウイルス感染拡大の状況下において会場での対策、スタッフの手配等多くの困難・不確定要素があることから、予定していた名古屋国際会議場における研究発表会の開催は中止することとした。今後はWebによる開催やポスター発表の方法等について、事業企画委員会において検討し、次回理事会で審議することとした。
- ・地盤工学会の研究発表会(ZoomによるWeb開催)では大きな不具合無く開催できたこと、ポスター発表の方法として口頭発表に切り替えることや著作権に配慮しつつpdfファイルを掲載する方法も考えられること、今年度は講習会等の中止が相次いでいることからCPDの取得が思うようになされていないこ

との情報共有がなされた。

4) 令和3-4年度任期代議員所定数の本部・支部内訳について

- ・常務理事より標記の説明がなされた。
- ・本部・支部における代議員数について設定案の通りとすることとした。
- ・現在定款には、代議員の定数として100~150名、会員20名当たり1名という記載があるが、現状の会員数と代議員数との関係と整合していないため、今後定款の改訂を検討する。

5) 第1回日本応用地質学会表彰の進め方について

- ・常務理事より標記の説明がなされた。
- ・議論の結果、表彰の方法については、所属支部関係者が被表彰者の望む形で贈呈する内容で進めることとし、情報公開・プレスリリースは速やかに実施することとした。

6) 令和2年7月豪雨災害調査団の設置について

- ・常務理事より標記の説明がなされた。
- ・標記の豪雨災害のうち、九州地域における災害箇所を対象に調査を行うことを承認した。
- ・九州支部、災害地質研究部会、応用地形学研究会を中心に調査団を編成するものの、他の参加希望者を排除しないことが確認された。

3. 確認事項

1) 収支状況

- ・事務局長から令和2年度6月期の本部収支が説明された。
- ・現在のところ、特に問題は見当たらない。

2) 令和2年度社員総会報告

- ・常務理事より社員総会について報告があった。

3) 令和2年度社員総会議事録について

- ・常務理事より標記の報告があった。

4) 委員会、研究部会、支部名簿について

- ・常務理事より標記の報告があった。
- ・関係する委員会、研究部会、支部の名簿について今一度確認頂くよう要請されるとともに、新任委員、部会員、顧問を今後名簿に反映することとした。

4. 本部からの報告事項

1) 他学協会からの依頼

- ・常務理事より「令和3年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞、若手科学者賞及び研究支援賞受賞候補者の推薦について(依頼)」に関し説明があった。来年度応募するために準備を進めていくことが確認された。各理事においても被推薦者があれば提示することとなった。
- ・常務理事より2020年9月に開催予定の「原子力総合シンポジウム2020」について、学会が共催とするこ

- とが報告された。費用は発生しないとのことである。
- 2) 学会ホームページサーバ管理者変更について
 - ・末永常務理事より標記の報告があった。学会公印押印文書1部を発行することが確認された。
 - 3) Web会議用機材の購入について
 - ・常務理事より標記の報告があった。学会事務局をキー局とした委員会、研究部会等を開催するための機材を購入したことが確認された。
 - 4) Web会議検討WGの設置について
 - ・担当理事から、標記に関する説明があった。
 - ・コメントとして、会議に用いるツールであるZoomのライセンスは学会で1つ保有しているが、今後ライセンス数を増やした方が良いことや、2021年9月に開催予定の火山地域の応用地質と岩の力学に関する国際WSでも参考とするため、WGの結果を共有頂きたいこと等があった。
 - 5) 令和2年度シンポジウムについて
 - ・担当理事より、標記の説明があった。開催は来年度に延期になること、Web会議システムを利用した開催の検討状況について確認された。
 - 6) ダム地質カード配布方法の変更について
 - ・担当理事より、標記の説明があった。今後一般への広報のツールとしても利用することが可能であることから、ダム地質カードを活用していく方針を確認した。
 - ・来年3月から開催される「全国ダムカード展 in ふじおか」にダム地質カードを提供することについて確認された。可能であればダム地質カードにまつわる説明用パネル等の展示も土木地質研究部会で検討することとなった。
 - 7) 防災学術連携体委員交代と2020年度総会の結果について
 - ・常務理事より標記の説明があった。防災学術連携体では今年10月と来年1月にシンポジウムが開催されるため、学会からも報告する内容があるか検討することとなった。
5. 各委員会・支部・研究部会・小委員会からの報告事項
 - 1) 総務委員会、事業企画委員会、国際委員会、議事録の提出があり、内容の説明がなされた。
 - 2) 災害地質研究部会
 - ・稲垣理事より、胆振東部地震による地すべり災害に関する報告書、令和元年東日本豪雨等災害調査団報告書の進捗状況が報告された。また、令和2年7月豪雨災害調査団の設置にあたり、現在の状況が報告された。
 - 3) ダイバーシティ準備会
 - ・担当理事より7月27日開催のダイバーシティ準備会の開催結果が報告された。今後特別委員会を立ち上げることにあたり、委員の候補を推薦頂きたい旨要請があった。
 6. その他
 - ・新型コロナウイルス感染拡大の状況下において、事業計画が必ずしも順調に進捗していない場合があると考えられるため、常置委員会、研究部会、支部において事業計画の修正等がある場合は、総務委員会まで提出頂きたい旨、要請があった。予算執行で変更がある場合は速やかにお願いしたい。